

## 平成24年度第1回氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成24年4月19日（木）
- 2 開催場所 市役所5階第2、第3委員会室
- 3 会議時間 午後4時～午後4時45分
- 4 出席委員 糸毅、大引巻代、川上修、久保俊介、仕切義宣、嶋尾正人、西塚友彦（七尾雅周委員代理）、姫野貞夫、古川弘（佐藤泰樹委員代理）、松原敏雄、糸秋男、吉田勝紀、小堀正夫、嵩尾憲昭、山本弘子 計15名
- 5 欠席委員 森本太郎、屋敷夕貴、田中英雄、釣賀節子 計4名
- 6 市出席者 堂故茂（市長）、棚瀬佳明（副市長）、定塚信敏（企画振興部長）、金谷正和（総務部長）、江添良春（建設農林部長）、濱井博文（教育次長）、有島良信（消防長）、桶元勝範（企画政策課長）、七分由紀雄（総務課長）、高橋正明（財務課長）、山口優（福祉課長）ほか
- 7 傍聴者 市議会議員3名
- 8 案 件 (1) 配付資料の説明  
(2) 質疑応答、意見交換

### <協議資料>

- 資料1 氷見市集中改革プランⅡ（実施計画【平成24年度版】）  
資料2 資料 【別冊】プランの目標を達成するための具体的な取組

### 9 会議録

発言内容	
総務課長	ただいまから、平成24年度氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたします。委員のみなさまには、お忙しいところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。本題の協議事項に入ります前に新しい委員のみなさまのご紹介、会長の選出について、事務局のほうで進行させていただきます。 最初に、新しい委員のみなさまをご紹介いたします。お手許の名簿順に

ご紹介いたします。まず、公益代表委員として、老人クラブ連合会会長の糸様です。青年会議所理事長の久保様です。自治振興委員連合会会長の仕切様です。社会福祉協議会会長の嶋尾様です。次に、労働関係団体代表委員として、連合富山高岡地域協議会氷見地区協議会副議長の糸様です。同じく氷見地区協議会議長の吉田様です。また、本日、観光協会会長の代理として西塚様に、事業所協会会長の代理として古川様にご出席いただいております。なお、森本委員、屋敷委員、田中委員、釣賀委員につきましては、本日欠席となっております。

次に会長の選出であります。本懇話会におきましては、これまで、自治振興委員連合会の会長をお願いしております。今回、新たに連合会会長になりました仕切様をお願いできないかと思っておりますが、みなさま、いかがでしょうか。

(出席委員全員拍手)

ありがとうございました。

それでは、仕切様には、会長席にお着きいただき、議事進行をお願いしたいと思います。仕切様よろしく願いいたします。

一言、ご挨拶申し上げます。

前田前会長の後を引き継ぎまして、自治振興委員連合会会長を引き受けました仕切でございます。今ほど、本懇話会の会長ということで非常に困惑いたしております。元来、外野席の方からいろいろ批判をしたり、野次を飛ばしたりすることは得意なんですけれども、内野席は、誠に苦手でございまして、戸惑うことも多々あるかと思っておりますが、どうかよろしく願いいたします。

それでは、最初に副会長であります。会長の指名ということになっておりまして、本日、欠席でございますけれども、連合婦人会会長の屋敷さんをお願いをしたいと思っております。

それでは、最初に堂故市長さんから挨拶があります。

堂故市長

委員のみなさまには、何かとご多用のところ、お時間をいただきまして、ありがとうございます。委員各位には、提言をいただき、また、後押しをいただきながら、氷見市の行財政改革を強力に進めさせていただいております。この席をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

今程は、本懇話会の新しい会長が選任されたわけですが、仕切会長様には、どうぞよろしく願いいたします。

今年、氷見市は、ちょうど市制誕生60年という節目の年でもあります。また、この委員の中には、兼ねておられる方もおられるかと思っておりますが、新しい総合計画、第8次総合計画をスタートさせた年でもあります。大変意味深い年度だと思っております。この新しい総合計画では、目指す都市像を「人、自然、食を未来につなぐ交流都市ひみ」を出したところです。特徴といたしましては、重点的かつ戦略的に取り組むべきテーマ

として、10の重点プロジェクトを設定したところです。

1つ申し上げますと、防災対策の強化を実施する防災安全ネットワーク構築プロジェクト、少子高齢化に対応するため、あつたか子育て充実プロジェクト、それから、先月13日に北大町で安全祈願祭が行われましたが、この10月にオープンの予定といたしております、ひみ番屋街、それから、温浴施設の総湯を中心として、300万人交流推進プロジェクトなどといった10のプロジェクトを推進しているところであります。このようにスタートしている事業もありますが、この総合計画の実施に当たりましては、市民と行政、そして企業が一体となって知恵を出し合い、汗を流すこと、協働のまちづくりを進めることが最も大切であると考えています。その一方で、これらの事業を実施するための財源の確保のためにも、これまでも継続して取り組んでまいりましたが、引き続き行財政改革に取り組む必要があると思っております。この行財政改革の取組みを通じまして、財政の健全化に努めながら、今、行政が成すべきことをしっかりと見定めて、総合計画を着実に実現したいと考えております。

本日、ご説明させていただく集中改革プランⅡであります。平成24年度実施計画についてであります。この実施計画は毎年作成することとしております。

委員の皆様方には、この計画について、ご意見をお聞かせいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

会長

ありがとうございました。それでは、協議案件に入りたいと思っておりますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同じく、発言の要点を、委員名を伏せて公表したいと思っておりますので、ご了承よろしくお願い申し上げます。

議事録の作成及び公表に関する事務処理につきましては、事務局の方でお願いしたいと思っております。

それでは、協議資料を一括して、事務局に説明をお願いいたします。

総務課長

(協議資料の説明)

会長

数字並べて、一瀉千里にご説明いただいたわけですが、ただいまの説明に対するご質疑、ご意見、ご提言等がございましたら、お伺いしたいと思います。どなたからでもご発言をお願いします。

委員

5ページの特定目的基金というのがありますけれども、これは、どうやって、お金が集まってきたものなのですか？

この残高が1億7200万と書いてありますが、この残高を、これくらい残しておかなければいけないという説明をしていただきたいと思っております。

会長

はい、お願いします。

財務課長 特定目的基金とありますのは、ふるさとづくり基金でありますとか、社会福祉事業振興基金、教育文化振興基金などがありますが、それぞれの目的に応じて、これまで、ご寄付をいただいたり、あるいは、交付税の方に参入されてきたり、あるいは市独自で積み立てたものを、それぞれの行政目的に応じて財産として持っているわけでごしまして、特に特定目的基金については、どれだけ持っていなければならないという基準はございません。

会長 よろしいですか？他にありませんか？  
それでは、議長席から何ですけど、見当はずれだと申し訳ないですけど、地方交付税の方で、広報に載っている金額と、この資料に載っている額の差は、何と解釈すればよいですか？

総務部長 交付税の中に、臨時財政対策債という記載がございます。これを含むと書いてありますが、この臨時財政対策債というのは、国の方もお金がないと言うことで、一旦、市町村が借金して下さいよと、交付税として割り当てるのだけれど、国が直接その分だけ支払う力がないから、前もって市町村で借金をしてくれと。ただし、市町村が返済していく時に国から100%交付税として交付しますよと、いわゆる後払いで交付しますよという部分が交付税に入っています。ただ、市の分類の中では、いわゆる市の借金の中に、臨時財政対策債は入ります。そういう関係で、部分的に一緒になったり、離れたりする関係で、合計額が違ってくるということになると思っております。

会長 他にありませんか？ それでは、〇〇さん、何か、ご質問ありませんでしょうか？

委員 今年60周年ということで、ミュージカルをしますよね。市民会館の利用の活性化を進めていくことは、大変良いことだと思っております。  
つきましては、さっそくミュージカルの入場券が14日に発売されて、16日に買いに行ったのですが、売り切れでした。係の方に聞くと、発売時刻の前から行列ができていて、発売と同時に売り切れたと言われました。それで、28日の一般発売も行列で売り切れではないかと言われ、高岡文化ホールや富山県の教育文化会館に行ったらあるかもしれないと言われました。せつかくの市制60周年という大きな時期に、初めてりっぱなミュージカルをするのに、手に入らないということ。今後、文化、芸術を、もっと盛んにしていただいて、入場券が身近に入るようにしていただきたいです。そうすれば、市民会館も、よく利用されると思いますし、赤字対策にもなり、特別なものでなく、普通のを継続してほしいです。それが本当の活性化につながると思います。300万人交流もわかるのですが、北大町だけでなく、他の地元のためにも計画して活性化していただきたいです。

堂故市長 その前に一言。市民会館の活用、または市民のための追加事業をこれか

らも活用していきたいと思います。それと、入場券が売り切れたというのは初めてなので、その事情を聞かせてもらいますか？

教育次長  
委員

詳細は不明ですので、教育委員会の方で確認させていただきます。

主催者のほうにもお電話したんですけれども。

堂故市長

60周年というので、特に式典もいたしませんし、ただ、市民の気持ちで60年を迎えたということで、いくつかのイベントで、60周年記念の企画をしておりますが、これらについて、今おっしゃったようなは文化事業に関しては、60周年に限らず、行っていきたいと思います。

券が売り切れたという、うれしい話と、またちょっと申し訳ないです。事情だけお願いします。

委員

私も買いに行ったんですが、なかったんです。主催者のほうにもなかったのですが、びっくりしました。氷見市で、いままでにないことですね。

堂故市長

大変申し訳ございません。通常なら、最後に職員にお願いするのですが、こんなうれしいことはないです。しかし買えない方がおられたと言うことで、大変申し訳なかったです。

委員

はい。

会長

〇〇さん、お願いします。

委員

急にあってられて困惑しております。

日頃から、皆様には、青年会議所活動運動に、ご協力いただき、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

行政改革ということで、さしあたって意見は、ないのですが、市長さんが言われたように、我々、若いものとして、若者が氷見に帰って来てくれるようなまちになればいいなど一生懸命やっております。新聞紙上でもにぎわしている、市長さんが実行委員をされている氷見まつりですが、300万人交流の発信地となるところで、一つ盛り上げるといたしまして、ディズニーパレードがあります。パレードに興味を持ってこられた方々も、綺麗な町並みを見て、すばらしいと感動してもらいたいです。それをきっかけに、温泉施設、民宿を利用してもらい、また家族や今度は友人と来たいなどになっていただければいいと思います。懇話会と違う話になりましたが、私がこの場で言えることは、こういうことです。まちづくりは人づくりで、市長さんも第16代議長をされていましたが、ぼくらもその背中を見て追いかけているわけでなんですけれども、せっかく人間育成をしても、氷見に戻ってきたくても戻ってこれるような働く企業が少ないということ、我々は、そういうことを無くしていきたいと思っております。

また、その辺のことを、若者の意見を、聞いてやってください。

ありがとうございました。

会長

非常に貴重な意見だったと思います。市の方から何か、この意見に対することがありましたら、お願いします。

堂故市長

去年大震災がありまして、個人主義に世の中がなりかけていて、お金が

全世界を一瞬でめぐっていく中で、今だけが大事という風潮があった中で大震災があつて、絆とか、次の世代に物事を受けついでいくということが本当に大事なんじゃないかと、見直されているのではないかと思います。そういう意味で、青年会議所が、今、一生懸命取り組んでいただいている、人、自然環境、氷見の切り札である食を、ちゃんと未来につないでいく、この交流都市。この交流都市もですね、近き人喜び、遠き人来る、という理念で進めていけたらと思っています。観光客のためにまちを創るのではなく、市民が暮らしやすい中で、そういう価値観を求める人が、いらっしゃるまちをと思っています。それから、もちろん行政は、一定の役割を果たさなければいけないけれども、こうした青年会議所のような、エネルギーのある若者、市民の皆さん、企業が一体となって進めていけたらいいと思います。青年会議所が一つの先頭となってくれば大変ありがたいと思います。

会長 ありがとうございます。他にありませんでしょうか？よろしいですか？

委員 3ページに市税の増額などによりと書いてありましたが、人口も減っていて、そして、あまり事業の活性化もしてない中で、どうして増額したのかと疑問に感じました。それからもう一つは、実施計画の試算に前回の試算額と、6億も変わった見込み方をしておられると、おかしく感じたんですが、そのあたりのご説明をお願いします。

財務課長 ご指摘の3ページの市税の収入の見方が、どうして大きくずれているのかというご質問なんですけど、毎回、試算のときに、お出ししているのが、当初予算の数字でございまして、当初予算段階では、どうしても市税収入とは、やや、安全圏を見積もって、低く見がちでございまして、税収の方も、現実には実績として、それほど低くはなかったということで、特に、23年度におきましては、企業の方で、いろんな償却資産、設備投資をいろいろされて、そういった償却資産の税収が増えてきたということ。それから、市民の方々の所得が、この不景気でありますから、随分落ち込むのではないかと、予想はしていたんですけど、それほどでもなかったということで、税収の増になって現れているということです。

会長 よろしいですか？ それでは発言も一通り出たようでございますから、これで協議を終了したいと思います。

最後に市長さん、お願いします。

堂故市長 皆さん、本当にお忙しいところ、ありがとうございました。

先ほど申し上げたように、皆様には行革に関わっていただいて、厳しい市の状況から見ると、相当改善したと思います。特に、病院建設をしながらも、借金額を減らして、また、職員数も一時、1,050人いたのが、400名くらい、ものすごい行政改革を進めさせていただいて、一時は大変な状況、全ての基金を出しても、やっとなのげるかという状況からは脱

したのかと思います。しかし、行政改革というのは、市民の求める行政を、形を変えながら、いつもブラッシュアップしていかなければいけないことには変わりありません。

それから、市の収支だけは、お陰様で、だいぶいいところまでできましたが、国全体を見ますと、国の借金が膨大になってきています。交付税が頼りの市としましては、交付税の行方が大変心配であります。また、国と地方の関係が、今後どうなっていくのかというのも、この国を考えた場合、大変心配ですし、氷見市を考えますと、少子高齢化が一段と進み、人口減になっております。これは、受けて立たなければならない課題です。地域によっては、過疎が進行しています。町部もそうかもしれません。そういうことに対して、行政が、どう向き合っていくか、これまで以上に行政需要が、ますます多くなるということを考えると、気を引き締めて、これまで以上に行財政改革に取り組んでいかなければならないと思うわけです。

皆さんの、ご指摘を受けまして、しっかりと取り組んでいきますが、これからも、適切にご指導、ご鞭撻いただきますようによろしくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

会長

委員の皆様には、長時間審議にご議論いただき、ありがとうございました。

本日は、これをもって閉会といたします。長時間ご苦労様でした。